

ひたちなか市 なかや保育園幼年消防クラブ

茨城県ひたちなか市 社会福祉法人愛友福祉会
理事長 河野 英市



社会福祉法人愛友福祉会なかや保育園では、昭和60年から幼年消防クラブに加入し、園児と職員が毎月避難訓練を実施しています。訓練では、消防署からお借りした水消火器を使用し、園児たちは消火の重要性を学んでいます。

当園は農村地域にあり、道路が狭いため大型消防車の進入が困難ですが、消防署の協力で小型消防車を持ち込んでいただいた際には、園児だけでなく保護者にも好評でした。その後、園児たちの希望を受け、バスで消防署見学を実施し、消防士の仕事を学ぶ機会を得ました。

また、4歳児と5歳児はマーチングに取り組み、出初め式にも参加しています。厳寒の中、地元消防団の支援を受けながら演奏を披露し、参加者の声援のもと元気いっぱい演技を行っています。式典最後の消防車の一斉放水では、虹がかかる様子が歓声上がるなど、子どもたちにとって印象的な瞬間となっています。

さらに、令和5年には消防救助技術関東地区

指導会（水上の部）にアトラクションとして出演し、水難救助に取り組む消防士を応援するため、5歳児がマーチング演奏とダンスを披露しました。こうした経験を通じ、園児たちの中には「大きくなったら消防士になりたい!」と夢を抱く子どもも増えていきます。

今後も、消防士の皆様への感謝を胸に、地域の安全を支える活動を続けてまいります。



金沢市三馬校区 子ども消防クラブ

石川県金沢市三馬校区子ども消防クラブ
野村 晃子



金沢市三馬校区子ども消防クラブは、明るく広い心を養い、火災予防について学び、関心を深めることを目的として、昭和56年5月24日に発足し、毎年様々な活動を行っております。

主な活動は、5月は金沢市子ども消防クラブ協議会及び指導者研修会、7月には子ども消防クラブ合同研修会、10月には子ども消防クラブ連合訓練に参加させていただいております。

また、春と秋の火災予防運動期間中には、消防団の方々と連携し、夜回り等の広報を行っており、その他にも1年間を通して様々な活動を行っています。

クラブ員は、放水体験や応急手当訓練、防火服の着装などの活動を通して、防火・防災に関する知識や経験を習得しております。

災害はいつ起きるかわかりません。令和6年1月1日には能登半島地震、同年9月21日には能登半島豪雨が発生し、私たち大人でも体験したことのないような災害が発生いたしました。そんな災害を体験したからこそ、いつ起きるかわから

ない災害への備えとして、より一層防火・防災への対策が必要であると思います。

子どもたちには、クラブ員として、今後も積極的に様々な活動に参加してもらい、火災をはじめ、自然災害に対しても、高い防災意識を持ち、将来の防火・防災のリーダーとして成長していただきたいと願っております。

